

碑文谷公園における公民連携の考え方

1 碑文谷公園における公民連携について

(1) 目黒区の公園について

財政負担を軽減しつつ、区民のニーズに応じた公園の実現が必要です。

コロナ禍を経て、身近な憩いの場である公園で過ごす人が増えており、公園に対するニーズも年々多様化しています。一方で、区の公園の多くは開園から30年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。また、維持管理も、物価や労務単価の上昇や樹木の成長などにより必要経費が増えています。公園利用者のニーズに応えながら、行財政の負担を少しでも軽減し、安全に楽しく過ごせる魅力ある公園を実現していく必要があります。



(2) 碑文谷公園の今

収益を直接公園に還元し公園を維持・魅力アップを図るという視点の「新たな公民連携」に取り組んでいく必要があると考えています。

碑文谷公園は、現在、公園ボランティア団体や町会・住区住民会議、子ども動物広場・碑文谷体育館・ボート場を運営する事業者など、区(公)と様々な団体(民)との連携協力により成り立っています。公園でのボランティア活動、指定管理者や委託業者によるサービス提供、公園利用者や関係者等による「碑文谷公園を話し合う会」での意見交換などの取組が行われています。区としては、上記の現状を踏まえ、収益を直接公園に還元し公園を維持・魅力アップを図るという視点の「新たな公民連携」にも取り組んでいく必要があると考えています。



(3) 碑文谷公園の「新たな公民連携」の考え方

今の碑文谷公園の良さを残しつつ、よりよい公園となるような公民連携の実現を目指します。

① 役割・地域特性を前提とした計画

碑文谷公園に求められる役割（子どもの遊び、生物多様性や桜、地域活動（お祭りなど）など）や、碑文谷公園が住宅地の中にあるという特性を十分に考慮し、地域にじむ計画とします。

② ポニー・体育館事業を活かす

現在のポニー事業、体育館事業はそのまま活かし、それ以外の部分で公園に魅力を付加する計画を考えています

③ 住民参加を基本とした公園づくり

今後も地域に愛される碑文谷公園としていくため、公園利用者・地域の皆さんに参加いただきながら一緒に検討していきたいと考えています。

④ 「公募設置管理制度（Park-PFI）※」の活用を検討

公園で生じる収益を直接公園に還元しやすい手法として、「公募設置管理制度（Park-PFI）」の実施を検討しています。そのため、常設の収益施設を公園内に新たに設置する可能性があります。

碑文谷公園における公民連携の考え方

2 公民連携に向けたこれまでの取組

(1) 実証実験の実施

公民連携の取組について、実際に事業を行った際の市場性や区民の方々の意見を検証するため、トライアルサウンディング（都市公園の暫定利用を希望する事業者等の提案を公募し、一定期間、実際に使用してもらう試み：実証実験）を実施しました。4事業者から問合せ・相談があり、うち1事業者が実際に実証実験をいました。

- ① 名称 GAKUDAI PARK MARKET
- ② 日程 令和5年11月25日（土）、26日（日）
- ③ 時間 10時から17時（両日マーケット）
18時から20時（25日のみ映画上映）
- ④ 主催 高架下から学大を考える会【構成員：東急株式会社ほか】
協力 学芸大学商店会連合会など
- ⑤ 内容
生鮮食品や加工品の販売、古着や骨董品、
アクセサリーやセレクト雑貨販売、 キッチンカー、
ワークショップ、ステージ、屋外映画上映
- ⑥ 出店数 105店（内41店が学芸大学駅周辺店）
- ⑦ 来場者数 1.2万人（主催者推計）



イベント周知ポスター



(2) アンケート調査の実施

実証実験の満足度や碑文谷公園の魅力アップの取組に対する意見を把握するため、ウェブ上でアンケート調査を実施しました。

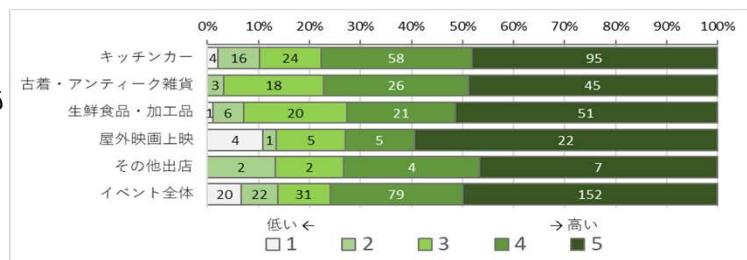
【実施期間】 令和5年11月17日（金）から12月10日（日）まで

【調査項目】 回答者の属性、イベントについて、現在と今後の碑文谷公園について

【結果概要】 回答者数 349件

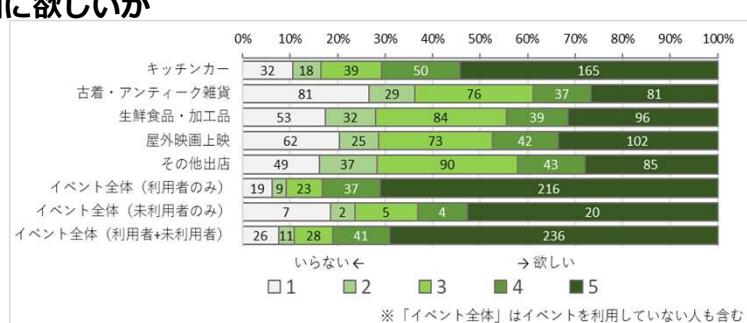
イベント各コンテンツの満足度

各コンテンツの満足度について、最も評価が高い“5”と回答した人が各コンテンツで5割近くとなり、満足度は高かつたといえます。



イベント各コンテンツが今後の碑文谷公園に欲しいか

イベント全体でみると、最も要望が高い“5”と回答した人が7割近くとなり、イベントのニーズは高いといえます。ただし、コンテンツ別にみるとキッチンカーは“5”が5割を超えたものの、他コンテンツは3割程度となりました。



碑文谷公園における公民連携の考え方

(3) 意見交換の実施

令和5年11月30日(木)に、18名の公園利用者・地域の皆様が参加した「第33回碑文谷公園を話し合う会」において、ワークショップ形式によりテーマごとに参加者同士で意見交換を行いました。

公民連携は、将来の目標や理想を実現したり、課題を解決するための手段の一つであるという考え方のもと、碑文谷公園のより良い未来に向けてアイディアを出しました。



テーマ	分類	主な意見
① 現状の碑文谷公園について	良い点	施設等 みどり・いきもの、池・ボート、運動、動物とのふれあい
		利用者の多さ 子どもが多い、利用者同士の交流、幅広い年齢層が利用、利用者が多く1日中人の目があり安心
		周辺環境 立地・アクセスの良さ
	悪い点	みどり 外来種の伐採、落ち葉清掃やりすぎ、桜が少なくなつた
		施設 遊具、園路の傷み、池の水質、トイレ、暗い、駐輪場が少ない、ベンチ、雨を受ける屋根がない
		利用マナー 夜間騒がしい、ゴミのポイ捨て、犬の糞
② ①を踏まえて、 どのような碑文谷公園を残したいか	保全	自然、動物とのふれあい、桜
	充実	動物との触れ合いを拡充、子どもの遊びの充実
	子ども	子どもたちの原風景、安全に遊べる場所、子どもの居場所
	連携	関係者の横連携、若い人の場づくり
	その他	静かに過ごせる公園、地元の人のための公園
③ ②のような碑文谷公園の実現に向けて何があると良いか	施設	ベンチ、あずまや、雨宿りの場所、休憩できる場所、飲食できる店、キッチンカー
	運営	池と砂場の管理・植物の剪定・日よけに収支を回せると良い、週末等の相談窓口
	見守り・防犯	夜にも誰かの目がほしい、防犯カメラの充実、常駐で見守る人、子どもを遊ばせる人
	ボランティア	ボランティアによる掃除やゴミ拾い、ボランティア活動へのインセンティブ
	子ども	子どもの意見を聞く、小学生と未就学児の遊ぶスペースを分ける(球技利用など)
	若年層	若年層向けのイベントを年2回くらい、若年層や日大寮との連携
その他意見等	実証実験イベント	にぎやかだった、今後も実施してはどうか、子どもが楽しめなかつた、外の人がたくさんきても地元のことを思っているわけではない
	公民連携	Park-PFIへの肯定、公民連携しなくて良い、ショッピングモールは高架下にあればよい、地域が意見を言える場を設定すること

碑文谷公園における公民連携の考え方

3 どんな碑文谷公園を目指すのか

(1) 公園全体のイメージ

これまでの取組の中で得られた結果をもとに、公民連携により目指す碑文谷公園のイメージを以下のように定めました。

コンセプト【共生と創造を育む学芸大学のオアシス】

- 今ある自然環境を活かしつつ、池と緑のより一体的な空間づくりを進めることで、人といきものが共生する公園を目指します。
- 自然に交流が生まれる空間・仕組みづくりを行うことで、地域の新たな魅力を創造する公園を目指します。

水と緑に親しむ公園（公園全体）

- 既に碑文谷公園を対象として策定されている下記の計画を基本として、現状の樹木などについて適切な維持管理を進めることで多様な生物が訪れる環境とします。
碑文谷公園管理運営計画書（令和6年3月）～人・いきもの共生プラン～碑文谷の池・森を未来に～
サクラ再生実行計画「碑文谷公園」（令和5年3月）～池に映える桜の風情、多品種の桜、春の高揚感を再生します～
- 水辺の生物多様性保全ゾーンの創出として池の中の島周囲で行った浅場の創出について、モニタリングを実施して、その結果をもとに水辺のいきものや池の水質浄化の視点からもエリア拡大を検討していきます。
- 周囲にわたり垂直に整備されている池の護岸は、より池を感じられる親水空間としての活用を検討します。

いきいきと体を動かせる公園

- 区民の健康増進やスポーツの普及の役割を担っており、今後もより様々な人が運動を楽しむことができるイベントや空間づくりを進めます。



みんなの居場所になる公園

- 碑文谷体育館及び碑文谷公園のバリアフリー化を推進し、子どもや障害のある方、高齢者など、誰もが使いやすい公園を目指します。
- ポニー園や体育館事業と連携しながら、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを行い、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指します。

みんなが集い主役となる公園

- 地域団体や公園運営に係る事業者など、多様な主体が連携した活動やイベントにより、公園や地域の活性化を目指します。
- 公民連携によるイベントの開催時等に活用できる広場などの滞留空間を確保します。

碑文谷公園における公民連携の考え方

(2) 新たに施設設置を検討しているエリアなど

碑文谷公園のコンセプトを実現していくために、「公募設置管理制度（Park-PFI）※」などを活用した公民連携事業に取り組むことで、老朽化が進んでいる施設の改修、新たな機能追加や収益施設（飲食店、売店等）の導入などの碑文谷公園のさらなる魅力向上を進めます。

みんなの居場所になる公園



みんなが集い主役となる公園

小動物とのふれあい広場周辺

- 小動物舎や小動物舎事務所などの施設老朽化が課題となっています。
- 施設の改修や、魅力向上のための新たな収益施設等の導入を検討しており、「みんなの居場所になる公園」実現のため、居心地良く人が訪れたくなる空間を目指します。



現状（築25年程度）



施設規模イメージ

ボート場周辺

- ボート管理舎などの施設老朽化が課題となっています。
- 施設の改修や、魅力向上のため機能追加による新たな活用方法や収益施設等の導入を検討しており、「みんなが集い主役となる公園」実現のため、より多くの人が訪れたくなる空間を目指します。



現状（築31年）



施設規模イメージ

新たに設置する施設の規模について

- 公園内に設置できる建物の面積は、都市計画法、都市公園法などによって制限されています。
- 都市公園法に定める建ぺい率をもとに、新たに設置できる建物の面積を算出すると最大約2,400 m²（※公募設置管理制度による面積緩和を適用した場合）となります。しかし、公園の景観や周辺居住環境に影響がないようにしなければなりません。
- 今後、事業者を公募する際は、新たに施設を設置できるエリアや規模を限定することを考えています。

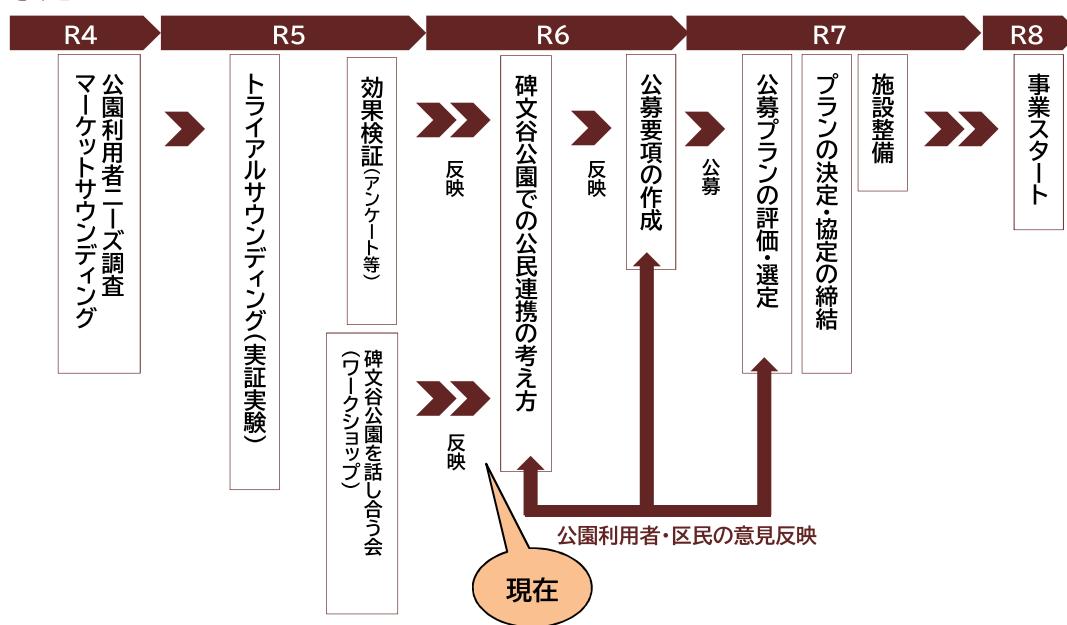
碑文谷公園における公民連携の考え方

4 今後の公民連携の進め方

イベント来場者を中心としたアンケート調査結果と「碑文谷公園を話し合う会」での意見交換の内容からは、今後の碑文谷公園に求めることや目指す姿について、目黒区、公園利用者、地域住民の意見が一致するところが多くあります。まだ意見交換が必要な内容があることも分かりました。公園利用者・地域に愛される碑文谷公園としていくためには、引き続き、区も含めた公園に関わる人たちが、お互いの意見を知り、意見を交わし、すり合わせていくことが大切と考えています。

今回「碑文谷公園における公民連携の考え方」をお示しして、公園利用者や地域の皆様からのご意見を募集します。頂いたご意見をもとに、令和7年度に実施予定の事業者公募・選定にむけて公民連携(Park-PFI)の内容・条件を具体化し、碑文谷公園のさらなる魅力アップの実現を目指します。

<今後の予定>



公募設置管理制度（Park-PFI）とは？

(都市公園法第五条の二)

民間事業者の資金やノウハウを活用して魅力的な収益施設（飲食店、売店等）を導入するとともに、その収益の一部を公園施設の整備・改修等に充てることによって、公園の魅力向上とともに、整備に必要な区負担の軽減が図られる制度です。

碑文谷公園における老朽化している施設の改修と、新たな施設の設置を行う手法として導入を検討しています。

